

令和元（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	住環境福祉論演習（Exercise in Housing Environment for Elderly and Disabled People） 395153-14400					担当教員	米山宗久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	1～4 年次	開講期	集中
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
高齢者・障がい者が暮らしやすい生活環境、健康で自立したい生活、安全・安心・快適な住まいや地域社会を理解するとともに、バリアフリーの必要性を習得することを目的とする。福祉住環境コーディネーターの基礎知識を身に付けることを目標とする。そのため、大学内のバリアフリーの点検、車いす体験、高齢者疑似体験、白い杖体験、福祉施設などで実習を行うことにより、生活者の視点、他の専門職との連携の視点を習得できるようになる									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
教科書に基づき、高齢者や障害者と特性を理解する。実際に体験を行うとともに、大学内の施設整備を検証する。また福祉施設での実習を行い、住環境整備状況の確認をする。さらに報告書を作成して、フィードバックを行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
住環境福祉論 1 の履修していることが望ましい。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 高齢者や障がい者が暮らしやすい生活環境を理解する。 (ii) 高齢者や障がい者の疑似体験を行い、行動を理解する。 (iii) 大学内の住環境整備状況を理解する。 (iv) 福祉施設における住環境整備を理解する。 (v) 住環境整備の必要性を理解する。									
⑥ テキスト（教科書）									
東京商工会議所(2019)『福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト改訂 5版』東京商工会議所									
⑦ 参考図書・指定図書									
授業において紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			50%	10%	30%	10%		100%
(i) 高齢者や障がい者が暮らしやすい生活環境を理解する。			10%	4%		2%		16%
(ii) 高齢者や障がい者の疑似体験を行い、行動を理解する。			10%	3%	5%	2%		20%
(iii) 大学内の住環境整備状況を理解する。			10%	3%	5%	2%		20%
(iv) 福祉施設における住環境整備を理解する。			10%					10%
(v) 住環境整備の必要性を理解する。			10%		20%	4%		34%
フィードバックの方法	実習報告書で解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>テキストは2年次以降の関連科目のテキストとしても使用する。必ず購入の上、毎回の授業に持参すること。疑似体験・福祉施設における実習にあたり、グループで行う。</p> <p>集中講義のため、他の講義や実習と重複しないように各自で調整を図ること。テキストは関連科目のテキストとしても使用する。必ず購入の上、毎回の授業に持参すること。福祉住環境コーディネーター3級検定試験を受験することを基本とする。</p>

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション	テキスト	暮らしやすい生活環境を考察する	30分
2	高齢者の心身の特徴	テキスト	老化のとらえ方や運動・健康を理解	60分
3	障がい者の心身の特徴	テキスト	障害の種類やその要因を理解	60分
4	大学内のバリアフリーの検証	配布資料	バリアフリーを理解	30分
5	疑似体験（車いす・白杖）	配布資料	車いすの特性・白杖の役割を理解	20分

6	疑似体験（高齢者）		高齢者の身体的特性を理解	20分
7	福祉施設実習に向けた注意事項	配布資料	高齢者福祉施設の理解	60分
8	福祉施設実習(1)		共用品や福祉用具を理解	30分
9	福祉施設実習(2)		段差・手すり・建具を理解	30分
10	福祉施設実習(3)		スペース・照明・冷暖房を理解	30分
11	福祉施設実習(4)		屋内・屋外の移動を理解	30分
12	福祉施設実習(5)		排泄・入浴・清掃などを理解	30分
13	福祉施設実習(6)		高齢者の生活状況を理解	30分
14	実習報告書の作成	テキスト	住宅や住環境の整備の視点を理解	60分
15	実習発表	テキスト	住宅や住環境の整備を理解	30分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL では、報告書作成と報告発表、フィードバックを行う。協同学修型 AL では、福祉施設実習を行う。課題解決型 AL では、フィールドワークとして学内のバリアフリーを検証する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、人間が住み続けることには、住環境を整備することでより快適により安全に生活できることを学生に伝えることができる。

たとえば、普段使っているシャンプー・リンス・ボディソープの容器を選別すること、そこには障害のある人もない人も通常使えるバリアフリーデザインなどの必要性を伝えることができる。さらに実体験として普段から見慣れている社会環境にも目を向ける必要性も伝えることができる。

また、高齢者保健福祉計画や障害者副計画においても、介護の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。